

第6回地域福祉部会（仮称） 摘録

日 時：平成29年4月10日（月）18:00～20:00

場 所：区役所第1会議室

出席委員：中里部会長、川田委員長、青柳副委員長、老門（聡）委員、大久保委員、
小田委員、砂川委員、椿委員、滝本委員、中村委員（10名）

欠席委員：葛西委員（1名）

資 料：次第

資料1 委員名簿

資料2 第6期審議スケジュール案

資料3 区民会議フォーラム分科会記録

資料4 有馬中・宮前平中 認知症サポーター養成講座記事

その他 第5回地域福祉部会摘録（案）

宮前区まちづくり協議会第10期委員募集チラシ（田辺委員提供）

中間報告書（案）

■資料確認

■区役所人事異動の紹介

区長交代 小田嶋区長

事務局（区役所企画課） 大木課長補佐

1. 議事

(1) 区民会議フォーラムのふりかえり（公開）…配布資料に基づいて

(2) 今後の審議について（公開）…次ページ以降参照

(3) 部会名について（公開）

「地域福祉部会 ～多世代による地域支え合い～」

に決定した。

2. 事務連絡（公開）

今後の日程等の確認など

第6回 地域福祉部会 審議結果要点メモ

※各意見の詳細等は次ページ以降参照

■部会名称

「地域福祉部会 ～多世代による地域支え合い～」

■今後の審議・取組の方向性

■今後の審議の方向性

テーマ：認知症の理解の・地域支援（フォーラムの結果を受けて）

- ①フォローアップ研修、ケーススタディや話し合いを蓄積する場の構築
- ②他の企業や団体に参加してもらえる取組や場の形成

テーマ：企業や商店の場・スペースの活用、みんなの食堂・地域のたまり場

- ・宮前区の現場のニーズ（もしくはその調査方法）
場からでなく、現場のニーズ、担い手などから起こしていく事が必要
- ・困っている人を地域福祉の制度につなぐしくみとして
前期提案「ほっとやすらぎステーション」の内容も踏まえて

認知症の理解・地域支援

- ・ 企業の参加の輪を拡げる
- ・ 多世代・多主体合同のフォローアップ研修、現場情報の共有
- ・ 認知症患者、介護者、連絡先などを示す表示やしるし
→地域全体で認知症を支えていく気運を高めていく

業や商店の場・スペースの活用、みんなの食堂、地域のたまり場

- ・ 事例：「塚越の陽だまり（幸区）」「ふらっと大塚」など
- ・ 地域貢献意向のある空き家物件は少ない。
- ・ 場からではなく、ニーズから起こしていくことが必要。
- ・ ニーズと担い手や物件をマッチングしていくしくみづくり
- ・ 既存の場に、食事機能を付加、試験実施していく方向性の検討
- ・ 前期提案「ほっとやすらぎステーション」と絡めて、その発展形など

■フォーラムの評価

- ・ 企業・学校など様々な立場の人が集まったのは大変良かったが、話合いの時間が足りなかった。（川田・中里・砂川）
- ・ 時間の短さは企画時から自覚していた。イベント連動型だと養成講座の時間が短くなってしまいう傾向がある。時間を長くすると参加へのハードルがあがる面もあり、バランスが難しい。（中里・事務局）
- ・ 中学校での講座では、初日に1時間半の講座、2日目は各クラスで振り返りなど時間をかけており、満足度が高かった。（老門）
- ・ アンケート結果からも、テーマとしては成功だったと思う。私自身も認知症に関する理解が深まり、記事などが気になり目につくようになった。（青柳）
- ・ アンケートで「区民会議を名前しか知らなかった」「知らなかった」という参加者が多かった。新たな層の参加が得られたのではないか。（コンサル）

■認知症サポーターのフォローアップや二次研修、情報共有の場の形成

- ・ フォーラム参加者の次の行動につながる仕組みを考えていきたい。（青柳・川田）
- ・ 地域全体で認知症を支えていく気運を高めていく必要がある。もっと話し合っていきたい。（川田）
- ・ 一般論だけでなく、長年活動してきた方や一緒に暮らしてきた方の話を、生で聞くことはとても勉強になる。子育てでも、少し上のお子さんをお持ちの方と話す機会があると、子どもの未来を具体的に想像できたり、後で「あの時、聞いた話だ」と役に立ったりする。認知症も正にそうだ。（滝本）
- ・ オレンジリングを取得した方の二次研修、その後の行動や意識の変化、体験や取組事例などの情報を共有する場が足りないのではないか。企業などにも声をかけて、順番に幹事になっていただき、定例化できると良い（コンサル）
- ・ フォローアップ研修が開催されている例はあり、2月頃にも開催されていた。いろいろな企業に参加していただけると良い。（老門）
- ・ フォローアップが定期的にあると良い。（川田）
- ・ 地域内で支援や実例を共有できる場があると良い。（老門）
- ・ 認知症にやさしい地域をつくるには、他の多くのコンビ二、企業に参加してもらえるようにしていくこと、企業がCSRで行うものとしてアピール力があるものにする必要がある。（大久保）

■認知症の方やその介護者のしるし、連絡先等の把握方法など

- ・ 大学生が認知症の方に位置情報が発信されるブレスレットをつけてはどうかと話し合っている例がニュースで紹介されていた。（中里）

- ・ 認知症の方とそのパートナーが、男女どちらのトイレも入りづらく、ユニバーサルトイレでも、二人で出てくると変な目で見られるという悩みがあるようだ。認知症介護者の表示、しるしがあると良いのではないか。(川田)
- ・ 電車で降りる駅が分からなくなってしまった方。周囲のみんなで声をかけていたが、私は途中下車してしまいどうなったかわからない。認知症であることを示す印や連絡先がわかる何かがあると良い。(中村)
- ・ 近所の方にも知らせておくことが適切な対応に繋がる。家族の方などがもっとオープンにできるようになると良い。(中村)
- ・ 保護した方の帽子に書かれた連絡先でご家族に連絡できたことがある。ご家族の方もやはり心配で連絡先を書かれていたのだと思う。(老門)
- ・ 認知症の方が通っていたコンビニが無くなってしまい、別のスーパーに行ったら、うまく対応できずに警察に通報してしまった例を聞いた。(老門)

■ 企業の取組など

- ・ 大手企業に勤める息子は、社内の研修で認知症について学んで話してくれた。企業などではどんどんやって、発信して欲しい。(中村)
- ・ ゆうちょ銀行が独自の取組として、窓口で認知症の方に適切対応できる人材の育成を進めていると聞いた。(老門)
- ・ 無関心層にもアピールするには全てボランティアではなく、何かインセンティブを考えられないか。(事務局)
- ・ セブンイレブンと協定関係を活かしたベンチマークになる取組、他業者も後追いせざるを得なくなるような取組ができると良い。(大久保)

■ みんなの食堂や地域たまり場① イメージ

- ・ 認知症の方が日常的に地域の方々と触れ合える場所があると良い。たまり場のような場で一緒に食事をしたり、話したり、蓄積できる場が、町会ごとくらいにできると良い。(滝本)
- ・ 小学生、中学生が多い宮前区ならではのたまり場が、「区民会議公認」などの怪しくない、自然な形であると良い。(滝本)
- ・ 認知症に限らず、子育てなども考えた多世代のたまり場づくり。そこで特技を活かした作品販売や教室の開催なども考えれば、もう一方の部会ともつながり、多様な人が集まってくるのではないか。(青柳)
- ・ 食事を一緒にする事には、みんなの距離を縮める効果があると思う。(滝本)
- ・ 家族がお話、相談できる場所がもっとあると良い。(老門)
- ・ 貧困家庭に限らず、誰でも立ち寄れるような場にしたい。(中村)
- ・ 私の店は近所の人が老いも若きも多世代で集まって、いろいろな話が弾んで

いる。中学生が話して、すっきりして元気に帰っていく姿も見る。思ったことを話せる場、交流する場所は人間にとって非常に大切だと感じた。(砂川)

■ みんなの食堂、地域のたまり場② 事例・場の候補など

- ・ 幸区「塚越の陽だまり」…住民活動交流拠点。近隣町会が日替わりで管理人を務め、多様な企画を実施。元は会社ビルを建てる際に地元の相談を受けるために建てたプレハブが地域に提供された。結構広い。社協が大きな役割を果たしており、共同募金等からも資金を得ている。(老門)
- ・ 野川地区、建築会社の退去後、空いていた物件…第1地区の民児協で、4時間2千円程度で会議・活動等の際に借りている。(中里)
- ・ 「ふらっと大塚」…個人宅を開放した高齢者などのたまり場・サロン。大塚町内会が運営。(小田・中村)
- ・ 愛児園の運営協議委員に子ども食堂の運営者がおり、名刺交換した。詳しいお話を伺うことも可能だ。(中村)
- ・ 愛児園の新しくなった建物や地区会館「きまっしー」などは地域に「積極的な施設の活用」を呼びかけている。(中村)
- ・ 幼稚園の園舎などを活用できないか。(青柳)
- ・ アリーナ、営生分館、こども文化センターなどは厨房もあり、借りられる施設だ。(小田)
- ・ 小学校の教室はなかなか借りられない。また食事などは備品管理の観点などからとても難しい。(大久保)
- ・ 企業や商店の場・スペースの活用、実際の例はあるのか？なかなか具体的に進まない印象がある。(砂川)
- ・ 土橋カフェは参加者の2割程が認知症やその家族の方々。去年は12回開催、延べ1000人の参加があり、他の地域からの見学や参加も多い。(老門)
- ・ 食器類の有無や置場の確保も重要な条件。食器を揃えたり、その度に運び込むのでは大変だ。(老門)
- ・ マクドナルドのスペース活用は、特に話は進めていない。(中里、川田)

■ 目的や目指す場の明確化について

- ・ あと1年の中で結果を出したい思いと、結果だけ求めると理想と離れて物足りなくなってしまう思いとジレンマを少し感じる。(中里)
- ・ 成功事例を伺うと社協が大きな役割を果たしている例が多い。社協を核に地域の横のつながりができている。(川田・大久保)
- ・ 核となる担い手をどう見出し、どう応援、支援していくか。(川田)
- ・ 「みんなの食堂」とすることで、かえってねらいが薄まってしまった面もある

る。目指す場が明確でなければ、人は集まって来にくく、施設も借りにくい。
(川田・コンサル)

- ・ 不動産業者によると、場から活用法を考えると話難しい。空き家は沢山あるが、オーナーにそれで地域貢献の意志があることは少ない。特定の地域、ニーズがあれば、条件に近い物件探しはお手伝いしていただけるとのことだった。(大久保)

■ 既存の場の活用、前期提案「ほっとやすらぎステーション」の発展など

- ・ ゼロからつくるのではなく、既存の場や企業の場の活用から考えてはどうか。初期費用もより少なくなりそうだ。ケーススタディの実施などから始めても良い。(事務局)
- ・ 子育て世代が集まっている店、すでに参加者が多いコミュニティカフェなどの場で、食堂の取組を一度やってみる形、企業に参加してもらおう形などで考えてはどうか。(コンサル)
- ・ 前期提案の「ほっとやすらぎステーション」、困っている人と地域や福祉をつなげる仕組みの発展形として考えることもできるのではないか。(川田)
- ・ 地域包括支援センターを紹介しても、「まだ私には」と嫌がる方がいた。(砂川) →施設に連れて行くのではなく、施設のスタッフを呼べば良い。話してもらって友達になってもらってから、支援につなげる。(老門)
- ・ 企業のスペースの活用のテーマとも合わせて考えることができそうだ。
- ・ 場をつくることではなく、そのための情報やニーズを集約したり、マッチングしたりする機能を持てれば良いのではないか。(大久保)

■ 見守り支援センター連絡先 PR の取組 (検討・調整中) について

- ・ セブンイレブン、ローソン、ファミリーマートのコンビニ大手3社の店舗に「見守り支援センター」の連絡先を記載したステッカーやカードを設置する取組の検討・調整を区で進めている。更には他の業界や商店街への拡大なども協議をしていきたい。(事務局)
- ・ 見守り支援センターは土日や夜間にはつながらない。すぐに連絡がつくところがあると良い。(川田)
- ・ 困った時の通報先ではなく、相談先として思い出してもらおう、福祉の制度としてまずその存在を知ってもらうことが第一歩であり、その為の取組として考えている。(事務局)
- ・ 地図化の意見も出ていたが、既に検討・取組が進んでいるという話だった。どうなっているのか。(中里)
- ・ 地図データを基に地区カルテをつくる動きは全区であるが、まだ具体的な掲

載項目や、運用イメージ等には至っていない状況だ。(事務局)

■ **区民会議の PR、進め方など**

- ・ アンケートで「区民会議委員として活動してみたいか」と聞いてみたかった。
区民祭で出展なども良いのではないかと、常に呼びかけていきたい。(青柳)
- ・ まちづくり協議会など長年活動、PR しているが、まだ知られていない面もある。どんなに広報しても興味の全くない方には届かない。区民会議も地道に活動で少しずつ参加を増やし、広げていくしかないのではないかと。(川田)
- ・ 各委員が個人的な意見だけでなく、選出元団体の代表として、団体の意見、参加をもっと得ていくことが必要と感じている。(川田)